

アメリカは、日本を恐れている

何人かの方に、早く書け！とせかされ、言い訳と共にお詫びいたします。零戦・特攻隊についてしらべていくうち、さらに東京裁判史観による日本軍の残虐さの強調、侵略戦争など腑に落ちないことが次々に出てきて、さらには、「現代の語り部」と称する、年表の代わりにしか利用できないような半藤某のような輩がでてきて、「日本軍のみがひとり突っ走った」などという。どうも違う。(稿を改めてまとめます。)

米国の新聞博物館「Newzeum」が、20世紀最後の年に、全米のジャーナリストを対象に「貴方はどれが20世紀を代表する最大の事件だと思いますか」とアンケート調査をおこなった。

100年間だ。それまでの世紀にはなかった激動の時代である。いろいろあるが、航空機の発明と進歩、現時点まで矛盾の見られないアインスタインの相対性理論、天体物理の発展、ブラックホールの予言と発見、量子力学の進歩、第一、第二次世界大戦、月面着陸、原爆・水爆の発明、原子力発電。われわれの業界ではペニシリンやストレプトマイシンの発見、副腎皮質ホルモンの臨床応用、共産主義の勃興とソ連の崩壊、ナチスのホロコースト、コンピューターの発明などなど、枚挙に暇がない。……普通に考えれば人類月に立つだろう。

で、米国のジャーナリストが選んだのが、1位**原爆投下**、これにより日本を降伏させたこと(つまり、白人の勝利)である。2位に、**人類月に立つ**、3位に**真珠湾奇襲攻撃**。……これには驚いたのだが、それまでに漠然と感じていた、「アメリカは『現在でも』日本を恐れている、怯えている」がどうやら事実らしいと断定するに到った。

日本に怯える理由にはいくつかあるが、ひとつは、それまで有色人種に君臨してきた白人の牙城をくずしたのが日本であること。ロシアに限らず、イギリス、フランス、オランダなど、手も足も出なかった。そして彼らが裕福であった最大の原因である植民地からの搾取の解放があり、やつらは、ヨーロッパの片隅の小さな貧相な国にもどってしまったこと。オランダに至っては、8万もの兵力を有しながら、わずか二大隊2000人の日本兵に意気地なく降伏したことで、世界中にその腰抜けぶりが知れ渡ってしまったことがある。アメリカも、最後はともかく、戦争初期にはフィリピンを占領され、マッカーサーなど命からがら逃げだし

た。いわゆる敵前逃亡である。……ミッドウェイ海戦でも勝つか負けるか、ひやひやしっぱなしであった。さいわい日本軍の司令官が無能だったことからなんとか勝利を得たことで、その後は、日本がジリ貧になってしまった。

さらに「史上最高の航空機・戦闘機」零戦の存在である。日本人の**頭脳と技術**が、この時代の世界の水準を20年30年凌駕していたことである。

さらには、日本人の**人格**である。咸臨丸で渡米した幕府の高官たちの毅然とした態度、ふるまいが**高潔で品位**があったこと。戦闘中にも駆逐艦「雷」の敵兵救助をはじめ、多くの軍艦が敵でありながら人命救助をしていること、超弩級の戦艦プリンス・オブ・ウェールズの撃沈（航空機のみによる戦艦の撃沈は史上初めてのことに際し、これ以上攻撃しないから救助活動をおこなうように勧告していることなどがある。**優しさと親切、高貴な態度**、どれをとっても、「残虐な日本人・日本兵」など、いくらでっち上げても、嘘はうそ、真実は動かせない。

しかも**勇敢**で、特攻隊のようになにをしでかすか、彼らの予測をはるかに上回る理解不能の行動をとることもあること。日本陸軍は、当時世界最強であった。ロシア陸軍を撤退せしめ、ヨーロッパ戦線では、アメリカが誇るバファロー大隊の危機を救助している。

イギリスが、いつか、世界中に自慢していたのが、インパール作戦で白人が初めて日本兵に勝ったことである。……これは、むしろ日本軍の自滅のようなものだったのだが。

（特攻隊が艦上に来た時に発狂した兵士もいるし、ベトナム戦争後PTSDに悩まされていることが問題になっているが、太平洋戦争では問題にされなかった。そういう概念がなかったのかもしれないし、その後勝利を得たことも関係しているかもしれない。）

そして、その「強い強い日本軍に勝った」のは米国だけで、しかも、そのやり方が、大阪弁でいうところのエゲツナイ方法で、戦士を攻めずに家族や非戦闘員への攻撃をおこなった。原爆に限らず、各都市への絨毯爆撃で、現実に模型を作っていくにすれば効率よく被害を与えられるかを実験してからの空爆である。

原爆についていえば、この投下によって降伏させたと考えているらしい。そのため、本土上陸時の米兵の被害がなくなったことを原爆投下の免罪符にしている。さらには、厚顔にも京都や奈良といった古都を攻撃しなかったのは、文化財保護が目的であった、などとのもたもた。バカな事を言う、京都は原爆投下の都市の候補にふくまれていたから、通常の爆弾による空襲をひかえて原爆の威力をしらべ

ることであった。

ルーズベルトは、有色人種、とりわけ日本が嫌い。その理由は既に述べたが、台湾も樺太も満洲も取り上げて、4つの島に閉じ込め、科学工業生産力を奪い、次いで農業国に落とし、最終的には滅亡させるつもりでいた。なぜなら、有色人種は白人を崇め奉るのに、日本人は対等に、いやむしろ白人を凌駕する勢いで頑張りよる。これが気に食わない。やつらを野放しにすると、いろんなアイデアをだしてきて、世界に誇る発明を次々と発表してくる。これは、人種差別主義者の脅威になる。特に航空機関係の工業には目を光らせておかないと、また零戦のような突拍子も無い戦闘機を作る可能性が高い。……人種差別主義者というのは、というよりアメリカという国は、人類全体を考えるより、目先の自分の利益を優先する国家である。アメリカの成り立ちを考えるとよくわかるだろうが、(つまり世話になった命の恩人でもあるインディアン、これも **Native American** などと差別をしない風を装うが本音は、人間とは思っていないに違いない) 残虐なことをしてきた肉食動物である。平気でしかも偉そうに嘘をつく。互いに納得して作ったルールでも、相談もせず、勝手に変更する。人格も低いし、品位もない。高潔さから程遠く、常識も無い。世界中から嫌われる存在である。いずれは消滅する運命にある国である。……彼らが言うところの日本は残虐な事をしてきた。たとえば南京大虐殺、従軍慰安婦の軍による拉致などなど、すべて自分たちがすることを日本人もするだろう、というのがその証拠になっている。(日本兵には、虐殺などという発想はないし、一般市民も殺さない。) だから、写真とか現場にいた人の証言くらいしか証明できない。何千年も前のできごとの証拠品があるのに写真しか証拠が無いというのは、そういう事がなかったことの証明でもあるし、目撃者の証言も、蒋介石のプロパガンダに加担していた連中のものばかりである。嘘です、と言っているようなもの。

だから、事実上「日本」という独立国家でありながら、あたかも米国の属国のような立場に常に置いておきたい。唯一そのくびき(軛)から逃れ、日本の官僚組織を把握しようとした天才・田中角栄を、彼からみればはした金である5億円の収賄事件で立件し、事実上表舞台から引き摺り下ろした。

全日空の航空機選定の問題で、若狭得二会長に指示し自分の息のかかった会社の航空機にきめさせたというものであるが、この選定には疑問符がつくもので、若狭が素直に納得したとは考え難い。航空機の選択は、会社の浮沈を決定する可

能性もあるからである。若狭は、新聞記者らが「外為法違反」をくりかえすので、あるとき、その記者をつかまえ、外為法（外国為替法）について知っているのか！と詰め寄り、ついに「知らない」と言わせた男である。アメリカの陰謀である。……裁判も恥ずべきもので、最高裁判事は、キリスト教信者が聖書に誓って証言したのだから、嘘をつくはずがない、というものが判断の根拠である。バカなことをいう、コーチャンでもクリントンでも嘘ばかりついている。白人崇拜主義の名残なのか、最高裁判事の見識を疑うし、クリントンなんか、よくまあ大統領にしたものだ。こいつのお蔭で日本企業が、ありもしないことでどれほどの裁判で罰金を取られたか。

まったくのゼロからのスタートであったが、自動車部門ではトヨタ、日産をはじめとする小型車の台頭、バイクではホンダ。米国企業が軒並み凋落するなかで好調を維持し、日本人の優秀さを骨身に沁みて知る事になる。すると、アクセルがおかしいために事故を起こした、と訴えるが、アクセルは異常なし。さらに今度はブレーキだと言い出す。これもクリアーすると、敷物がまくれて、と言いだす。裁判所もゴーサインをだす。つまりは、国ぐるみで、「些細な事に言いがかり因縁をつけ」勝訴に持ち込む。ホンダは、事故で下半身不随になり車椅子生活を余儀なくされた、という。判決で、いずれの場合も運転者の前方不注意や無謀運転によるものとわかっていながら、有罪で罰金刑になる。しかもその額が途方もない額で数十～数百万ドルになる。陪審員は、そのくらいの額を払ってやったら、などとのたまう。ホンダは無実になったのだが、その理由は、車椅子生活のはずの若者が走りまわっていたことがわかったからである。負けて元々、勝ったら儲け物くらいの考え。クリントンが絡んでいるのだろうが、やつは日本人が嫌いだから。……心配ない、日本人もクリントンが嫌いだから。

最近下町ロケットのように零細企業がロケットを作ったり、三菱が国産ジェット機を作り、さらにはステルス戦闘機まで作る。ボーイングだったかが、腰を抜かすほどに驚いたのもむべなるかな。三菱といえば零戦を思い出す。戦後国産初の飛行機は、プロペラ機のYS11で、部品などは純国産ではないが、零戦の堀越二郎さん、隼の太田稔さん、紫電改の菊原静男さんらが関与している。50年飛び続けている。

このところ、日本人のノーベル賞受賞者が急増しているが、当然と言うべきか。ノーベル賞については改めて書きますが、本来白人の優越性を示す為のもので有色人種にはくれないものだった。しかし、理論物理でも化学、医学、数学（ノーベル賞にはないが）、一般科学などにおいても、日本人の優秀さを排除・無視することができなくなってきたからである。

素直にその能力を認めることができないから、さまざまな嫌がらせをするのである。米国でのでっち上げの裁判では、外交官がなにもしてくれない。・・・これも別に書きます。

三菱自動車、旭光学、東芝、トヨタ。すべて濡れ衣を着せられてきた。

今、米国は次期大統領選挙で騒いでいるが、いかにもアメリカ人の一タイプという感じの傍若無人、「人品骨柄卑しく」粗野で、繊細さの欠片もない、品のないがさつなトランプが、在日米軍の費用を全額負担せよという。そうでなければ撤退するぞ、と言う。アッ、どうぞ。いつでも帰ってください。いりませんから。ただし、すぐ近くに2つも核爆弾を持った国があり、また何を考えているのかわからないから危なくて仕方がない。だから核武装します。軍も充実させます。今の米軍並みに。・・・どうせ騒ぐのは朝日新聞くらいだろうが、こんなもん、10年もすれば消えてなくなるだろうから単なる遠吠え。子守唄がわりに聞き流しておきます。

アメリカだって、日本にいたら国益になると考えて嫌われても居座ってきたのだろう？それなら、自前で滞日されたらよろしい。但し、今後は賃貸料をいただきますが。

アメリカの汚いところは、相手が弱ければ嵩にかかって要求をエスカレートさせてくることである。高山正之氏によれば、サンタモニカに進出した企業から詐欺同然の方法で儲けようとするのである。

ある中堅資材メーカーが80年代後半に米国に進出した。それまで米国での窓口だったアメリカ人を副社長に据えた。「米国では代理人と契約し、彼らが売り込み先を見つけ、こちらが納品する。それがここのルールです」。

でもいい代理人を知らない。副社長が「では私を見つけましょう」よく働いた。ただ1万ドルぐらいの商談に3万ドルもの経費を使う。こげつくこともある。代理人は契約どおり規定の手数料と経費をさっさと持っていく。クビにする規定が

ない。で、裁判に負けて 10 万ドルの追い銭をとられ、ついでに副社長の知り合いという弁護士も負けたのに同じくらい持っていく。そういう訴訟がこの 10 年間で 24 件もあった。

それでもたまにいいこともあった。特殊ボルト 60 万ドルを注文してきて錆止めのメッキは金色に。納入しても代金を支払わない。問い合わせると「メッキの輝きが悪い」と折り返しにクレーム。では返品してください。「そうしたら何と言ってきたと思いますか。注文にあわないものだから捨てたと言うんです。」

これでは詐欺だ。同じ頃、「T 社は食い逃げができるトロい会社」という噂を聞かされた。

実際、この米企業が「捨てた」はずの製品をその後も使っているという情報も入っていたが、裁判で争う気力もなくしていた。

これを機に撤退を決めた。12 年間 10 数億円使ったが、利益は 1 セントもなかった。

まだある。この福社長が追い込んだ挙句、「会社がなくなって得べかりし利益を失った」と訴える。

「米国がなぜ豊かになったのか、十分に勉強させてもらいました。これは、日本の大企業も同じでしょう。われわれは撤退できるけど、大企業はそうもいかないのがかわいそうです。」

武田薬品が糖尿病薬で膀胱がんになったと、証拠もないのに裁判所が認める。補償額が 7600 億円。・・・それはないやろ！確実な証拠もないのに。

高山氏が言う、TPP に引きずり込もうとしているときに、最初から牙を見せたら相手が恐れをなして参加しなくなったら具合が悪かろう、と 30 億円で減額したという。

まあ、アメリカの一面はこんなものです。もっとありますが機会を改めます。ニューヨークタイムズでも、日本叩きに邁進している。証拠もない南京大虐殺や慰安婦で記事にする。・・・まともに相手をする気もなくなる。・・・それほど、官民挙げて日本を攻撃したい。いかに恐れているか。